

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 あかしあ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2), 自己評価作成日 (平成28年12月5日), 評価結果市町村受理日 (平成29年2月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「認知することに障害があっても適切な支援があれば普通に暮らせる」をモットーにご家族、地域との関係性作りを構築しながら地域社会に貢献することを目標としています。利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で思い思いに生活し、居心地の良い暮らしを送ることにより、その人らしい穏やかな日常生活を続けられるよう支援しています。具体的にはそれまでの暮らしに近い環境となるようになじみのある家具や道具に囲まれた環境作りを行い、畑仕事や買い物を楽しみ、頻回な外出行事や地域の方との交流を行っています。又職員は入居者様と生活をともにしていることを意識してゆっくりと関わりを持ち、一人ひとりの状態に応じた支援を専門職として提供できるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年1月23日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市に隣接する大曲地区の利便性の高い住宅街に立地しており、2階建て3ユニット27名の利用者を支援している。介護福祉事業を多数展開している法人の運営管理が充実し、理念の共有や人材育成、災害対策等でバックアップが図られている。地域とは日常的な相互交流をはじめ、避難訓練には住民10名程が参加協力が得られている。また、行政や市内同業者と地域福祉向上への協働、系列医療機関とも往診や緊急時対応などで連携が取れており、開設後15年の経過の中で、周辺機関や関係者と良好な協力体制が構築されている。職員は、経験豊かなベテランが揃っており、日常ケアでは個別にきめ細かく支援を行い、豊富な食事メニュー、ボランティアとのレク活動、季節の外出や個別の外出支援など、利用者の楽しみが増すように工夫している。運営推進会議の中で事業所の課題や困難事項を報告し、より率直な意見交換を深める取り組みや、防災面では毎月自主訓練を実施するなど、ホームの現状に向き合い、利用者、家族の信頼に応え、さらなる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念の掲示を行なっている。ただ覚えるだけでなく、入居者様一人ひとりに対し、理念とどう結びつけるのかを意識しながら実践に繋げている。	法人理念を基本姿勢とし、さらに事業所独自のケア目標、ユニット目標を策定している。共用空間の見やすい場所に掲示して、常に確認できるようにしている。利用者の支援に理念が反映されているかをふり返り、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、ボランティアの訪問があり交流を持っている。ホームでの行事や避難訓練に、近隣の方も参加して下さっている。	地域との相互交流や協力関係が充実し、利用者の暮らしに生かされている。近隣との付き合いをはじめ、町内会行事や事業所の夏祭り、保育園児やボランティアとのふれあいなど、共に楽しむ機会が多く設けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練を通し、認知症の人の理解や支援の方法を知って頂けるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度行なっている運営推進会議で、ホームの現状や取り組みをお伝えし、話し合いを持ったり意見を頂きながらサービス向上に繋げている。	2カ月毎に家族や行政、地域代表の参加で開催し、当事者である利用者にも積極的に参加をお願いしている。通常の報告以外に、事業所の課題等もオープンにして、率直な意見交換が深まるよう会議運営に努めている。	全家族に議事録を送付し、理解を求めているが、今年度は家族の参加が少ない状況にある。運営推進会議の意義を伝えながら、参加増につながる取り組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が中心となり日頃から連絡を取り合っている。運営推進会議に参加して頂き、ホームの現状や取り組みについての理解をして頂きながら、協力関係を築けるように取り組んでいる。	介護業務関係や各種報告等で、行政担当窓口の訪問や電話で、相談や助言、情報交換を行っている。市のボランティア事業への相互協力や、介護サービス連絡協議会(グループホーム部会)などでも、行政と密に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は電子錠にて施錠されているが、身体拘束に当たる事は理解している。身体拘束に関する研修に参加したり勉強会を行ない認識を高めている。日々のケアの中で疑問に感じた事は職員間で話し合っている。	マニュアルが整備され、身体拘束にあたる具体的内容に関する研修会や日常の事例を通して理解を深めている。気になる言葉などのグレーゾーンは、職員間で話題にして話し合っている。周辺の交通事情、防犯面を考慮し、玄関内入り口は日中帯も電子施錠しているが、利用者の外出の意向に応じて柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修会や勉強会に参加し、学ぶ機会を持っている。虐待が見過ごされる事が無いよう注意を払い防止にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、制度の理解を深めている。成年後見制度を利用されている入居者様もおり、後見人と話し合う機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、契約の際に契約の終結、解約や改定等の際についての説明を行ない、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様から意見、要望があった時には迅速な対応を心掛けている。日頃より、意見や要望を話しやすい関係作りを心掛けている。	来訪時には、暮らしの様子や行事のお誘いをしながら対話を心掛け、信頼関係を築くようにしている。意見等は対応記録簿や申し送りで共有し、検討や改善に努めている。本人の今月一番の笑顔の写真を載せた通信を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案については、ユニット会議等で話し合い、管理者等に相談している。その中で必要と思われた意見は反映できるよう努めている。	事業所内のコミュニケーションが良く、率直に意見を交換し合っている。法人本部の課長は随時来訪し、事業所全体を把握している。また、管理者も日常業務や面談時に職員の意見に耳を傾け、提案等を活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時には、昇給や待遇の改善がなされている。また個人的に面談を行い、職場環境に不満はないか、介護観の方向性を確認し、やりがいのある職場となるよう努めている。慰労会も年に数回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で内部研修を月に1度行なっている。外部の研修案内を各ユニットに配布し、希望者は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島ネットワーク地域部会に加入し、研修に参加したり他グループホームとの交流を持っている。実際、互いのホームに行き来し、見学したり介護の悩みなど話し合うなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人様が困っている事、不安な事、要望等を伺いながら、安心して生活して頂けるよう、寄り添いながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後にご家族様が困っている事、不安な事、要望等を伺いながら、ご本人様とご家族様に安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に、ご本人様やご家族様が必要としている支援を伺いながら、安心して生活して頂けるような支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事やお手伝いをすれば行えることの支援に努めている。入居者様同士の関係作りにも努め、余暇時間を共に楽しんで頂ける関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに日常の様子や体調について報告し、入居者様の様子を理解して頂いている。受診の同行や行事に参加して頂きながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親戚、近所の友人が面会に来られたり、入居前の担当ケアマネージャーが面会に来て談話する事があり継続性が保たれている場面はある。	知人や友人が来訪した場合は、居室で気兼ねなく話せるようにしている。以前の職場を訪ねたり、海育ちの利用者と一緒に小樽の海岸に出掛けるなど、今までの馴染みの場面や人との関係性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の関係を把握し食堂席の配置を考えている。席が離れている入居者様同士も、挨拶をされたり声を掛けたりと、良い関係が築かれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退居後に、入所された施設へ面会に行ったり、ご家族様から入居されていた方の近況を知らせる葉書が届いたりしている。退居されたご家族が来設される事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、接する中から暮らしの希望や意向を把握し、都度の対応に努めている。意思表示の難しい方には、ご本人様の様子やご家族様と相談しながら意向をくみ取るよう努めている。	日常会話で本人の思いを聞き取り、困難な場合は表情や仕草、家族の情報も参考に、できる限り本人の思いを理解するようにしている。本人の思いにより近づく為に聴取方法を模索している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後、ご本人様やご家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残しながら、一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直し時には、職員の評価を基にご本人様の現状に合わせた介護計画を作成している。ご本人やご家族様の要望を伺いプランに反映している。毎月のユニット会議でも、自分らしく暮らして頂けるよう話し合っている。	センター方式アセスメントの一部を使用し詳細に記入して、モニタリングやカンファレンスを通して本人の現状を見極め、3ヵ月毎に新たな介護計画を作成している。日々の記録に、本人のありのままの言葉を記載し、意向の把握と共に次回の計画作成に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫は個別記録に記入し、職員間での情報共有を行なっている。実践や介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩やユニット間の交流、状況により受診や買い物等、柔軟な支援やサービスを行なえるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源として、美容室に訪問して頂いたり、傾聴ボランティアの訪問により安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望により入居前からの病院に継続して受診されたり、ホームの協力病院の訪問診療を受けて頂く等、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からの病院継続は家族と協力して行っているが、多くの利用者は、協力病院による月2回の往診を利用している。皮膚科や歯科の往診、専門科受診は職員同行など、適切な医療受診に努めている。個別の受診記録で看護師と職員間で共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に入居者様の様子を伝えながら、適切な受診や看護を受けられるように対応、支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、早期の退院に向けご家族様や病院関係者と連絡を取りながら情報交換や相談を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期についての希望を伺っている。入居後にも、ご本人の状況に合わせてホームで対応出来る事の説明を行なっている。ご本人様を交える場合は配慮が必要な内容なので状況に応じて対応していきたい。	医療連携体制を整えたことにより、重度化や看取りケアの取組みが可能になっている。入居時や状態変化に応じて、家族や関係者間で方針を共有している。利用者、家族の望む支援が出来るよう職員の意識統一とスキルアップに取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加している。緊急時のマニュアルも作成されている。急変や事故発生時には、慌てずに対応出来るよう話し合ったりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ないながら、全職員が避難方法を身に付けられるようにしている。避難訓練には、町内の方も参加して下さり、協力体制を築いている。	消防署指導の下、住民10名の参加協力を得て総合避難訓練を実施している。訓練後に課題を明確にして、月1回の自主訓練に取り組んでいる。発電機や非常食等の備蓄品を備えている。	非常時に迅速安全に避難対応が出来るよう季節や時間帯、様々な場面を想定した訓練や、課題解決に向けた取組みの継続を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重している。誇りやプライバシーを損ねる事が無いような言葉掛けを行ないながら対応している。	業務中心ではなく、利用者主体と常に意識し、利用者の言葉をまず受け止めるようにしている。利用者との信頼関係を大切に、個別性を尊重した関わりを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を言いやすい様な働きかけを行なっている。その日の過ごし方や着る服を決めて頂く等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立されている方が多く、ご自分のペースで日々生活されている。外出の希望等は、可能な限り対応出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の機会を持ったり、ご自分でその日に着る服を選んで頂いている。2ヶ月毎に訪問美容も来ており、身だしなみにも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備を手伝って頂いたり、調理に参加して頂いたりしている。食後には、食器拭きのお手伝いもして頂いている。	一汁三菜を基本に、食べたい物や好みを盛り込んだ献立である。利用者が得意の漬物を作ったり、食材の下処理や片付けなどを行い、和やかに食事をしている。誕生会や外食、手作りおやつなど美味しく食する事を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量を記録しながら不足していないか確認している。不足している時には、好みの物で補食したり水分提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行なっている。必要に応じ、声掛けや介助を行なっている。歯科往診にて口腔ケアを行なってもらう事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用したり、ご本人の様子を伺いながらトイレ誘導を行ない、トイレでの排泄支援を行なっている。	排泄が自立している人もいるが、排泄表の活用や本人に聞き取りをして、個別の対応をきめ細かに検討して、自然な排泄ができるように支援している。布下着の着用や、衛生用品の使用減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物やヨーグルト等の乳製品を提供したり、水分を多く摂って頂くようにしている。毎日、体操も行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は難しいが、ほぼ毎日、午前・午後と入浴の支援を行なっている。入浴の拒否があった時には、無理強いせず翌日に声を掛けたりと対応している。	週2回を目安に、見守りや介助で入浴を支援している。状態によりシャワー浴や清拭、拒む場合も気持ちに合わせて対応を工夫している。入浴は、1対1の会話を楽しむ時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に応じ、静養を促している。安心して気持ちよく眠れるよう、温度や湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、処方されている薬の目的や副作用の把握を行い、医師の指示通りの服薬の支援を行なっている。症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やパズル、体操や歌番組の動画を観て頂いたりと楽しみを持って頂いている。家事参加をして頂く事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から、行きたい所を探り外出の支援を行なっている。季節を感じて頂ける様な外出行事を行なっている。また、暖かい日には、ホーム前での日光浴や畑や近所への散歩に出かけたりしている。	天候の良い時は、散歩や日光浴、畑作業や収穫と、外気に触れる機会を作っている。週2回法人運転手が配置され、スムーズに外出しやすい体制である。季節を体感できる公園や周辺の観光地、菓子工場見学などの外出行事、個別や数名での外出も柔軟に出掛けており、楽しみ事や気分転換ができるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持っている方には、外出の際等にご自分で買い物をして頂く事もある。他、欲しい物を伺い、お預かりしているお金から買い物の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をして頂いたり、携帯電話を持っている方には自由に使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状況に合わせ、テーブルやソファの配置替えを行なっている。入居者様が不快や混乱をまねく事が無いよう配慮している。ホールの壁には季節ごとに飾り付けを変え、居心地よく過して頂けるよう工夫をしている。	食堂兼居間には、季節の装飾を施し、行事の写真や見やすい時計、カレンダーが掲示され、居心地良い環境作りをしている。廊下にも、ソファや椅子を設置し、落ち着ける居場所を工夫している。温度・湿度に注意し、加湿器使用で感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の配置を工夫したり、ソファを配置し入居者様が思い思いに過して頂けるような空間作りの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、可能な限りご本人様の使い慣れたものや好みのもを持ち込んでいただき、ご本人様が安心して居心地よく過せるような居室にして頂いている。	居室は、程よい広さであり、大きなクローゼットは収納しやすくなっている。使い慣れた家具等が持ち込まれ、自由に家具を配置し、掲示物や暖簾を掛ける利用者もあり、一人ひとりが安心して過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんに分かりやすいよう、居室に表札を付けたりトイレとわかりやすいようにし、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		